

第 23 回 CAOS の会 参加印象記



だんのうえ眼科クリニック
院長 檀之上 和彦

カオスの暑くて楽しい夏をありがとうございます。

自己紹介

だんのうえ眼科クリニックの檀之上和彦です。

私は 4 年前に初めてカオスの会に参加させて頂きました。その際に今までに見た事もないような夢のような施設を拝見し、カオスの諸先輩方に貴重なお話を沢山伺い大きな感動と夢を与えて頂きました。その後会への参加を毎年重ねる度にその夢を実現したいという強い思いを抱くようになり、最後は細川社長に背中をドーンと押して頂き昨年 4 月に川崎中原区にて開業をさせて頂きました。開業後は、細川社長より 1 年目に与えられた手術件数目標をクリアすべく努力を重ね、初年度手術(白内障 546 件、下垂 206 件、硝子体 24 件)を施行することができました。正直なところ僕の開業はカオスの会の参加、細川社長のアドバイスを無くしては実現しませんでした。

今回は細川社長の御依頼により僭越ながら印象記を書かせて頂きます。

誠に申し訳ございませんが、第 2 日目は当院新規開業の個別指導日に重なり不参加の為、第 1 日目、3 日目を担当させて頂きます。

第 1 日目 聖母眼科医院 フェムトセカンドレーザーによる白内障手術

1 日目は香川県坂出市にある聖母眼科医院にて伝説のサージャンである永原國宏先生の手術、施設見学をさせて頂きました。

最初に会議室にて細川社長と永原先生より御挨拶がありました。細川社長はなんと今年で 73 歳になられるそうです。いつも活力が溢れていて毎年、年を増すことを感じさせないほどハツラツとされていらっしゃいますが、永原先生の年齢を聞いてさらに驚きました。2 人ともなぜこんなに若々しいのでしょうか?

そんな思いを抱きながらお話を聞いていると細川さんより核心をつく質問をされました。永原先生は超音波白内障手術の第一人者であり、私も愛用させて頂いているフェイコチョップを作られた先生です。その永原先生がなぜフェムトセカンドレーザーを購入され、術式を変えたのかを問われました。

永原先生は、最初に超音波白内障手術でフェイコチョップ法を始めたのだから、「自分からそれを終えるとかっこいいと思った」と言われました。本心はいかに?という想いで手術見学に入りました。



Catalys のフェムトセカンドレーザーを用いた手術はとても革新的なもので、モニターを観ているとまるで SF 映画やゲームを観ているような感覚に陥りました。今回見学させて頂くまではフェムセカンドレーザーによる白内障手術はメリットも有るが非常に高価な設備投資がかかるうえ患者さんと医師が手術室を移動しなくてはならないため従来の手術と比べ時間のかかる非効率的な手術であると考えていました。しかし見学させて頂き考え方方が全く変わりました。

フェムトセカンドレーザーでは CCC、核分割を行っており、その際は選任の ORT さんやスタッフが担当されており、その間に永原先生は他の患者さんに対する超音波白内障手術をすることができるのです。さらにもう一部屋では次の患者さんの消毒、準備をスタッフがしていました。つまり 3 部屋を交互に使用することでとても効率良く、時間のロスを最小限にできる手術が可能となっていました。

フェムトセカンドレーザーを使用することで術者 1 人にて 3 人の患者さんを効率的に手術できることになります。またフェムトセカンドレーザーによる白内障手術のメリットは CCC の大きさを一定にさせることができ、位置も瞳孔中央に確実にコントロール可能であるため Toric IOL や多焦点 IOL、調節型 IOL など偏位、傾きが不利となる IOL のメリットを最大限引き出すことができます。

また、フェムトセカンドレーザーであらかじめ核を16分割することでチン氏帯脆弱やPEにても破壊のリスクを減らすことができます。

従来の手術で最も視機能に影響しやすく同一大の弧を描くことが難しいCCCや核分割の再現性を極限に高められると思われました。乱視矯正もなされており近い将来本術式がさらに普及する可能性は十分にあると思われました。



永原先生の華麗な超音波白内障手術を拝見させて頂きました。先生の手術は超越した上手さでした。全ての操作に無駄が無く、熟考し尽くされていてとても低侵襲な手術でした。角膜切開創は3mmでバイベベルのダイアモンドメスを使用することにより、角膜切開でハイドレーションを行わずして自己閉鎖する、手術開始時に角膜上にオペガントを塗乗することで術中全く水滴下しなくとも角膜の乾燥を防ぐことができ前房内視認性も少し向上できると教えて頂きました。永原先生は最近右肩こりに悩まされ左手でCCC,USを行っておられました。カオスの先生方の鋭い眼差しを背に受けているにもかかわらず、利き手ではない左手で淡々と手術をされる姿を拝見して大変驚きました。先生は白内障手術が完成し尽くされ閉塞感があるため常に新しいことへチャレンジしたいと話されていました。この発想が永原先生の若さの秘訣であるような気がしました。

フェムトを導入された理由も新しいことへのチャレンジ精神と超越した手術を永続的に行うための将来への投資であると思われました。

お昼はとても美味しい讃岐うどんを頂きました。お店はうどんだけではなくおでんもとても美味しかったです。

午後は施設見学をさせていただきました。

とても清潔感のある広々とした待合室、検査室がありました。検査室には大学病院よりもはるかに多くの最新検査機器が並んでいました。これらも先生の診断、治療に対する探究心の賜物ではないでしょうか。階段や廊下にはゴッホのひまわりなどとても高価な絵がずらりとならんでおり美術館のようでした。



最上階にはなんとトレーニングルームがありました。こちらにはジム並みの設備が整えられており、そこには酸素カプセルまでもがありました。

先生は手術の前には1時間程入って英気を養っておられるとのことでした。

これにはアンチエイジングも御専門である藤本先生が大変興味をもたれ早速体験されておられました。手術には心技体が大事であると言われますが手術に超越された永原先生が毎日のトレーニング、酸素カプセルにて精神、体調を整えること、そして手術に対して確立した低侵襲手術、新しい方法へのチャレンジを持つことは若輩の私にとって大変勉強になりました。細川社長も毎日のジョギング、腹筋は欠かさず、新しい医療機器への探求心を常々もたれているとおっしゃっておられました。これらがお二人に共通した若さの所以ではないでしょうか。



第3日目 安里眼科おもろまち駅前 施設見学

3日目は沖縄県那覇市にある安里眼科おもろまち駅前を施設見学させていただきました。御施設は新しい沖縄の観光地であり、高級マンションや美術館が立ち並ぶおもろまち駅前にあり隣にはなんと DFS がある好立地でした。この地域は将来的にさらに多くの高級マンションやホテルが建設予定とのことでした。高級マンションは東京や大阪の方々も多く購入されているようで、県内のみならず県外の患者さんも来院できる立地でした。エントランスに入ったとたんここは眼科でなく高級ホテルのような錯覚に陥りました。正面にはレッドカーペットが敷かれた大理石の廊下、階段が有りました。



最初に会議室に入り安里先生のお話を聞きしました。先生は御施設を作られた際のエピソードをお話になりました。こちらの御施設は 1000 坪あり糸満の分院として作られたとのことでした。建設の際には大手不動産屋さんから眼科の上に 10 階立てのマンションを作り、その場合眼科は費用なしで建設できるといわれたにもかかわらず自院の上に他の人が住んでいるのは好ましくないとのことであっさり断られたとお聞きしました。普通であればこれを引き受ける先生

も多いのではないでしょか。安里先生の豪傑さ、思慮深さによるご判断に感銘を受けました。

施設見学は外来、検査室から始まりました。想像を超える広さの待合室、検査室、診察室を拝見しました。続いて手術室を見学しました。手術室もとても広くゆとりがあり、こんな広くて綺麗な手術室で手術ができたらなんと幸せだろうと思いました。



その後病室を見学させて頂きました。なんと入院費用は3500円ととても安いのにお部屋は高級ホテル並みの設備が整っていました。また屋上にはバーベキューのできるスペースやバナナ園、そしてVIPルームがありました。こんな素敵なお部屋であれば遠方からの患者さんも観光と合わせて手術される患者さんもいらっしゃるのではと思います。これぞメディカルツーリズムの理想郷とでも言うべき施設です。



最後に研修センターを見せて頂きましたが、これには開いた口が塞がらませんでした。奥様の趣味であるお料理教室のできる広大な調理場、お茶室、シアタールーム、カラオケバーとどれも高級かつ本格的な仕様で先生と奥様のこだわりが随所に見受けられました。

ここで安里先生のご講演がありました。眼科開業時の御苦労から現在の御施設をつくられた理由や将来の展望までお話を頂きこの施設をつくりあげられたプロセスを垣間みることができました。



その後は、ザ・ナハテラスにて懇親会が行われました。懇親会では、稻村先生による乾杯のご発声前の挨拶で『本日の施設見学は完全ノックアウト、コールドゲームです』とおっしゃられました。それほどまでに先生方が受けたインパクトは大きかったと思います。

安里眼科は3本の矢をとことん追求された日本1の眼科であると思いました。第1に県内外の患者様の為、第2に来賓の先生方や医療スタッフの為、第3に息子さんや奥様の為につくられた究極の御施設であると思いました。



2次会は「島思い」という沖縄民謡の生演奏を聞きながら食事ができる素敵なお店で行われました。ここで横浜南共済病院の樋口先生のお姉さまが偶然2次会場のお店のスタッフとして働いていらしたというサプライズもあり、安里先生も後半には参加していただき大変盛り上がりました。

そのままの流れで、安里眼科にあるラウンジスペースにて3次会（カラオケ大会）を行いました。カラオケ大会はとても楽しかったです。

但し歌の審査が大変厳しく喉自慢の先生方もなかなか曲を完走することができませんでした。安里先生を始め何事も真剣にされるカオスの先生方も完走するために必死で歌わっていました。

このまま朝を迎えるのかと難航していたところ眞鍋先生がなんと立て続けに2曲も完走されました。先生の歌声は本当に素晴らしいです。こうして会は無事終了しました。

安里先生は大変お疲れになっているにもかかわらず、先生方をタクシーの乗る最後までお見送りされており大変感動致しました。



まとめ

多くの優れたベンチャ一起業の発祥地であるシリコンバレーでは夢の大きさは現在の能力を超えている必要があり、少し怖いと思うくらい大きいものでないといけないといわれているそうです。

私はこの夏カオスの会にて訪れた御施設ではとても大きな夢、刺激を頂きました。また道中に全国より集まられたカオスの諸先輩方に大変貴重なアドバイスや勇気を与えてもらいました。

また来年のカオスの会に向けて日々精進し、少しでも夢の階段を上り、会に参加できるのを楽しみしております。

末筆ながらまだ残暑の続く暑い日が続いておりますので皆様どうぞお体にご自愛頂きたいと思います。